＜２０２３年度事業報告書＞

【概　況】

2023 年度は、新型コロナが 5 類に移行したこともあり、各本部において必要な感染防止対策を施したうえで、概ね予定された事業を実施することができました。

さて、当協会は 2023 年度の事業計画で次の 4 つの目標を掲げました。

1 点目は「海の森総合型地域スポーツクラブ」の設立です。

こちらは、（公社）日本ローイング協会、（公社）日本カヌー連盟、東京都カヌー協会と協働して、関係各位のご尽力で本年 3 月に無事、一般社団法人として設立いたしました。現在、当協会から顧問、理事、常任委員が参画し、クラブ会員募集など本格的な活動開始に向け、諸準備に携わっております。

2 点目は、フェーズ 1 として設定した、海の森水上競技場の利用開始です。

2023 年度、強化本部の国体都予選（少年チャレンジマッチ）と第 71 回東日本選手権競漕大会（2,000ｍ）を海の森に会場を移す計画を立てました。国体都予選はスタート位置の変更などセッティングの変更が生じましたが、各本部が円滑な連携をしたことで、海の森水上競技場で実施することができました。一方、東日本選手権は残念ながらエントリー数が著しく少なかったため、第 71 回大会は 2024 年に延期し、8 月に戸田漕艇場で代替レースとして、2023 東日本タイムトライアル（2,000ｍ）を開催しました。以上のように、海の森水上競技場の利用初年度は、課題が露見した厳しい船出となりました。

普及活動においては､同競技場で開催された 2020 記念レガッタの運営協力や指定管理者のイベントの協力をしましたが、今後も（一社）海の森総合型地域スポーツクラブの活動を支援することで地元協会としての役割を果たしていく所存です。

３点目は、フェーズ２として設定した、海の森水上競技場の利用促進に必要な検討・提言です。

加盟団体の皆様や海の森水上競技場利用の皆さんが、安心安全に施設を利用できる環境確保に向け、（公社）日本ローイング協会等と協力して課題解決を図るため、東京都や指定管理者と協議を重ねましたが、同競技場への公共交通機関の整備、牡蠣の付着物による艇破損防止策など、継続検討事項が残っております。

4 点目は、「財務体質の強化」です。

加盟団体の皆様に満足していただけるサービス（あらたな競漕会等の検討）の提供など前向きな活動をするにも、当該年度の事業計画を着実に実施するにも、資金が必要です。

今年度は、この課題に取り組むための「財務強化委員会」を立上げ、検討を進める予定をしておりましたが、海の森水上競技場での大会開催はじめ喫緊の課題に取り組んできたため、成果を挙げることができませんでした。この点を大いに反省し 2024 年度は精力的に取り組む所存です。

以上のとおり、2023 年度も加盟団体の皆様、東京都・都体協はじめ都内各区および各水地域の協会や団体の皆様、（公社）日本ローイング協会、関東漕艇学生連盟ほかローイング関係各位の皆様のご理解とご協力により、多くの活動ができましたことを心より感謝申し上げます。

今年度の各本部の事業報告は以下のとおりです。

1.　競技開催事業

(1) 競技会開催

別表１の通り競技会を開催した。

第 71 回東日本選手権競漕大会は、7 月 15 日（土）～16 日（日）に海の森水上競技場で開催する予定であったが、エントリーが全部で 11 クルーと極めて少なかったことから、エントリー団体に理解を得た上で 2024 年に延期した。2000m の代替レースとして、8 月 26 日（土）に戸田で 2023 東日本タイムトライアルを開催した。

(2) 新型コロナウイルス対策

3 月開催のお花見レガッタのみ以下 3 つの対策を講じたが、5 月初旬の 5 類感染症移行を境に対策なしとした。

・健康調査質問票の提出と体調不良者の参加自粛
・マスクの着用（水上にいる選手のマスク装着はクルーの判断）
・表彰式の中止（入賞者には大会本部で表彰状を授与）

(3) 光発艇装置運用

競技本部が主催した全 4 大会で光発艇装置を使用した。設置・撤去は競技本部を中心に、関東学連・審判本部の協力を得て実施した。また（公社）日本ローイング協会が戸田で開催した全 3 大会に同装置を貸し出した。

2. 普及事業

・8 月 27 日の第 7 回東日本マスターズ競漕大会は、男子エイト 14 クルー出漕と盛況裡に終了した。詳細は別表 2 のとおりである。
・9 月 30 日に実施した第 23 回谷古茂盾争奪マスターズ競漕大会は女子エイト 1 クルー、男子エイト 27 クルー、10 月 1 日に実施した第 13 回小学生交流レガッタは 10 クルーが出漕し、老若男女の熱戦が繰り広げられ、戸田ボートコースでのレースを楽しんだ。詳細は別表 2 のとおりである。
・ローイング競技の底上げと競技人口の増大を目的として、従来から多摩川、東大島、水元、日本橋川、東墨田の都内 5 拠点を中心にボート教室、各水域のローカルレガッタ、マシンローイングイベントを展開してきた。詳細は別表 3 のとおりである。
・7 月 22 日、23 日の全日本中学生選手権競漕大会は、福井県久々子湖で開催され、当協会所属団体からシングルスカル 3 艇が出漕した。

3. 強化事業

・東京都代表クルーのブロック大会、国体結果は、別表４、５のとおりである。
・当協会所属選手の海外大会への参加状況は別表６のとおりである。
・鹿児島特別国体に向けて選手の強化、競技力向上を図った。
・ジュニア選手を対象に強化合宿および講習会を実施した。
・トップアスリート事業 14 期生については専門プログラムを実施した。

４．審判事業

(1) 所属審判員の状況

2023 年 11 月 1 日現在、A 級 3 名（前年比△１名）、B 級 9 名（同±０）、C 級 104 名(同±０)、参与２名（同±０）の 118 名(前年比△１名)の審判員が所属している。

(2) 審判派遣状況

2023 年５月より、新型コロナウイルス感染症の分類が変わったこともあり、大会が従前規模で行われるようになった。その結果、当協会主催・主管に加え、（公社）日本ローイ

ング協会，他協会等への派遣も含めて延べ 370 名（前年比△3 名）に審判機会を提供することができた。2023 年度の各大会への派遣状況は別表 7 のとおりである。

また国際大会には、8 月の U19 世界選手権（フランス・山﨑審判員），ワールドユニバーシティゲームズ（中国・成田審判員），9 月・10 月のビーチスプリントファイナル・世界コースタル選手権（イタリア・中島審判員）が派遣された。12 月のアジア U19・U23・マスターズ選手権に山﨑審判員と成田審判員が派遣された。

(3) C 級審判員試験

2023 年は 2 回実施し、1 月 29 日に 7 名，7 月 23 日に 2 名の審判が新たに取得した。

(4) B 級審判員昇格

6 月の全日本新人選手権で 3 名が受験したが、合格者なし。10 月の全日本新人選手権で 2 名が受験し、平木健一審判員 1 名が合格した。

(5) 所属団体の技量向上

監視業務を実施することにより、所属団体が全日本クラスの大会に対応するための経験値アップを図った。また初めて競漕規則の説明会を Web 併用で実施し、ルールの理解を深める取り組みを行った。

5. 事業報告の付属明細書

2023 年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。